

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び
高質診療データベースのNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 藤原 俊義・岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学・教授）

研究要旨

日本癌治療学会は、診療科横断的ながん医療専門の統合的学会であり、2004年以降「がん診療ガイドライン」として各臓器・領域のがん診療ガイドラインの評価とウェブ公開を推進してきた。現在、jsco-cpg.jpにて23領域の臓器がん別ガイドラインと5つの支持療法に関するガイドラインを公開している。アクセス件数は、2016年は月平均119,895件であり、2007年の公開開始以降毎年増加してきている。また、第53～55回日本癌治療学会学術集会において、「進化するがん診療ガイドライン」として、がん診療ガイドラインのアウトカム評価のための企画シンポジウムを開催した。

A. 研究目的

本研究において、癌治療学会は横断的な学会として各専門領域の最新の学術的知見を幅広く共有し、科学的根拠に基づいた正確な情報を医療関係者および国民に広く発信することで、質の高いがん医療の水準を保つことを目的とする。

B. 研究方法

癌治療学会がん診療ガイドライン委員会では、幹事委員会、協力委員及び評価委員からなる29の分科会、G-CSFおよび制吐薬適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループ、小児思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成ワーキンググループ、がん診療ガイドライン評価委員会が連携し、エビデンスに基づいた正確な情報を迅速にホームページ上に提供できるように活動を行ってきた。

C. 研究結果

日本癌治療学会「がん診療ガイドライン統括・連絡委員会」では、がんの診療ガイドラインの作成・公開・評価のあり方について検討し、「がん診療ガイドライン作成・改訂委員会」、29領域の分科会、本学会が主体となる「制吐薬適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループ」、「G-CSF適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループ」、「小児思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成ワーキンググループ」と協力し、jsco-cpg.jpにて23領域の臓器がん別ガイドラインと5つの支持療法に関するガイドラインを公開している。

制吐薬適正使用ガイドラインは、第13回日本臨床腫瘍学会学術集会でコンセンサスメETINGを開催し、評価委員会での評価を経て、2015年10月29日全面改訂版の刊行となった。G-CSF適正使用ガイドラインは、2015年に一部改訂を2013年版ver. 2と

して公表し、全面改訂に向けて医師、看護師、薬剤師を対象とした利用状況に対するアンケート調査を実施した。

アクセス件数は2016年には月平均119,895件であり、2007年の公開開始以降毎年増加してきている。

2015年の第53回日本癌治療学会学術集会から、がん診療ガイドラインのアウトカム評価のための企画シンポジウムを実施しており、初年度は法制化される全国がん登録情報やNCDを活用した検証の可能性が示された。次年度も、全国がん登録情報や初年度に紹介できなかった5大がん以外の臓器がんのガイドライン整備状況などの検討が行われた。最終年度の2017年度も、「進化するがん診療ガイドライン」のテーマで開催した。

2015年6月公表のがん対策推進基本計画中間報告書では、ガイドライン推奨の標準治療の実施率が想定より低かったため、日本乳癌学会、大腸癌研究会、日本癌治療学会が連携して、実態調査の班会議をおこなった。標準的治療の実施率は実際には高かったが、施設間にばらつきがあり、非認定施設等へのガイドラインのさらなる周知が必要であると思われた。また、高齢者では標準治療を控える傾向があり、臨床判断に基づき治療を選択も重要である。

今後、NCDデータを用いた標準治療の実施率などは対象疾患によっては検証可能であるが、学会データベースとの照合などは必要である。

D. 考察

がん対策基本法に基づくがん医療の標準化の流れの中、診療ガイドラインの普及はわが国におけるがん医療の質の向上と均霑化に大きな役割を果たしてきた。多くの領域において、臓器別・療法別のがん診療ガイドラインが策定され公表されてきたが、

時代とともにその形式、作成・評価方法、発信媒体なども変化してきている。今後、臓器がん別および療法別ガイドラインの進捗状況とそのアウトカム評価に有用ながん登録などのデータベースの活用状況などを把握し、さらに最新のガイドライン作成方法、評価方法について周知していく必要がある。

E. 結論

がん診療ガイドラインの普及の診療動向や予後に与えた効果(アウトカム)の検証のために、データベースとの連動が重要である。